様式第１号（第１０条関係）

2023 年度業務実績報告書

提出日 2024 年　1 月　19 日

１．職名・氏名　　准教授・加藤裕美

２．学位　　学位　博士、専門分野　地域研究、授与機関　京都大学、授与年　2011 年

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

学術ゼミ（民族学）A（2 単位）　2 年次配当

② 内容・ねらい

福井県内の 5 つの観光事業者と協働した PBL 授業を実施した。地域の観光の実情を学ぶことにより、思考の応用力や、実践力、課題解決能力を涵養することを目的にした。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

未来協働プラットフォーム事業（福井版 PBL）「観光に生かす地域社会の魅力発見」を利用して、1.株式会社 IIO プロデュース、2.禅の里まちづくり実行委員会、3.三国祭保存振興会、4.鯖江市商工観光課、5.若狭美浜観光協会と連携した地域志向型授業をおこなった。30 人の受講生が、5 つのグループに分かれ、5 つの事業者と協働でプロジェクトを進めた。

1.株式会社 IIO プロデュースとは、4 人の学生が協働をおこない、三国周辺でフィールドワークをおこない、三国の自然・文化・歴史を生かした体験型観光について学生が発表を行った。2.禅の里まちづくり実行委員会とは 4 人の学生が協働をおこない、永平寺門前町でフィールドワークをおこない、五感をくすぐる観光プランについて学生が提案を行った。3.三国祭保存振興会とは日本人学生 5 名、中国人留学生 3 名が協働をおこない、三国祭にボランティアとして参加をしフィールドワークをおこなった。三国祭の活性化に関するアイディアを考え先方に提案した。4.鯖江市商工観光課とは 9 人の学生が協働を行った。鯖江駅周辺の飲食店でインタビュー調査を実施し、鯖江まちなかグルメマップの作成に携わった。5.若狭美浜観光協会とは 5 人の学生が協働をおこない、レインボーライン周辺の観光プランについて提案した。いずれも成果報告会を行い、協働先の企業を招いた発表を行い、協働先からコメントをもらった。

【ゲストスピーカー　7 人】
【フィールドワーク　5 か所】

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

学術ゼミ（民族学）B（2 単位）　2 年次配当

② 内容・ねらい

あわら市観光協会と協働した PBL 授業を実施した。地域の観光の実情を学ぶことにより、思考の応用力や、実践力、課題解決能力を涵養することを目的にした。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

未来協働プラットフォーム事業（福井版 PBL）「観光に生かす地域社会の魅力発見」を利用して、あわら市観光協会と協働した地域志向型授業をおこなった。事前授業ではあわら温泉の特徴について調べ、観光データの入手や、統計の分析方法について学んだ。あわら温泉周辺でのフィールドワークでは、事前学習での疑問点について学生が積極的に質問できる機会を設けた。授業の後半では、フィールドワークの結果をまとめ、あわら温泉の魅力を生かし課題を解決するアイディアについて、学生が発表を行った。文献調査と現地調査、どちらも重視し、多角的な分析ができるように努めた。

【ゲストスピーカー　2 人】
【フィールドワーク　1 か所】

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

導入ゼミ（はじめての東南アジア）（1 単位）　1 年次配当

② 内容・ねらい

東南アジアについて興味のあることを発見し、それをグループで調べ、他者にわかりやすく伝える技術を習得することをねらいとした。そのなかで、大学生活に必要な基本的スキルである、文献検索、レジュメ作成、レポート執筆、パワーポイントを用いた発表、ディスカッションのしかたについて学ぶ。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

少人数制ゼミであるため、グループディスカッションや学生同士のグループワークの時間を多く設けた。前半は、メールの書き方、文献検索のしかた、レジュメの作り方、レポートの書き方、ディベートのしかたなど、大学での学びを習得することに努めた。

未来協働プラットフォーム事業（福井版 PBL）「大学生と考える福井の多文化共生」を使用し、福井市越廼漁業協同組合と連携した地域志向型授業を実施した。福井市茱崎漁港でフィールドワークを実施し、インドネシア人技能実習生との意見交換を行った。また、フィールドワークではゲストスピーカーによる講義を行った。フィールドワークの様子は福井新聞に記事として掲載された。後半の調べ学習では、学部の専門に沿って、学生の関心を深める幅広いテーマを選択できるように工夫した。今年度は、環境問題、観光、食文化、民族衣装についてグループ学習を行い、グループでスライド発表を行うことによって、コミュニケーション能力の向上を目指した。民族衣装を着たグループ発表は学生に好評であった。

【ゲストスピーカー　2 人】
【フィールドワーク　1 件】

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

教養ゼミ（野生動物と地域社会）（1 単位）　1 年次配当

② 内容・ねらい

このゼミでは、狩猟、鳥獣害対策、ジビエの利用など、人間の生活環境の変化、自然環境の変化などと野生動物の関係について学ぶことをねらいとした。対象の調査方法、文献の検索方法、調査結果のまとめ方、レジュメやスライドを使った発表のしかたなど、大学生活に必要な、基本的な学習スキルの習得をおこなった。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

未来協働プラットフォーム事業（福井版 PBL）「野生動物と地域社会のかかわりを考える」に採択され、O3dining 株式会社と連携した PBL 授業を実施した。前半は、メールの書き方、文献検索のしかた、レジュメの作り方、レポートの書き方、ディベートのしかたなど、大学での学びを習得することに努めた。後半は、O3dining 株式会社が運営するルポの森でのフィールドワークを中心に狩猟、鳥獣害対策、ジビエの利用などについて、学生が企業と協働して鹿肉の有効活用についてアイディアを考えた。福井県猟友会、安全環境部自然環境課など、ゲスト講師による授業を行うことにより、多様な視点から野生動物と人間の関係を理解できるように工夫した。

ほぼ毎回グループワークやグループディスカッションを行うことにより、コミュニケーション能力や課題解決能力の涵養をおこなった。授業の最後に自己評価と相互評価を行うことにより、達成度を確認した。

【ゲストスピーカー　5 人】
【フィールドワーク　1 件】

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

観光学（2 単位）　1 年次配当

② 内容・ねらい

観光現象を文化・社会・経済的など、様々な視点から分析する力を養う。福井や日本、世界の事例を学ぶことにより、観光の効果と課題について検討した。また、観光への地域社会の関わり方について学び、持続可能な観光のあり方を考えることをねらいとした。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

未来協働プラットフォーム事業（福井版 PBL）「観光に生かす地域社会の魅力発見」の一環として、地域の観光事業者を招いたゲスト講義や、学生自身によるフィールドワークを重視した授業をおこなった。また大講義授業のなかでも、グループディスカッション、調べ学習、ポスター発表など、アクティブラーニングを数多く取り入れた授業を実施した。ゲスト講義では、（株）JTB、福井県観光連盟、（公財）、ふくいエコ・グリーンツーリズム事務局、および小原

ECO プロジェクトなど、県内観光事業者から直接実情を学べる機会を設けた。
　フィールドワークでは、永平寺、あわら温泉、東尋坊など県内 20 か所の観光地で学生がグループなどでフィールドワークを行った。調べた結果をグループでポスターにまとめポスター発表を行った。観光学の理論と事例の両方を学べる構成にし、事例では、福井県内、日本、世界とバランスよく学べるように留意した。統計データや新聞記事を用い、客観的に観光現象を理解できるよう試みた。　【ゲストスピーカー　5 人】
【フィールドワーク　県内 20 か所】

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
東南アジアの文化と社会（2 単位）　1 年次配当

② 内容・ねらい
　東南アジア各国の現代的状況を自然、生業、国家、民族、開発、環境問題、食文化など様々な視点から読み解く。アジアの一員としての日本と東南アジアのつながりを理解し、東南アジアを学ぶことによって日本の文化と社会の特徴についても比較できるようになることをねらいとした。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　未来協働プラットフォーム事業（福井版 PBL）「大学生と考える福井の多文化共生」の一環として、福井県社会福祉協議会を招いたゲスト講義を行った。福井県における東南アジア介護人材の増加、とくにタイ人介護士の状況について、学ぶ機会を設けた。また、福井県未来創造部の方を招いたゲスト講義を行い、福井県と東ティモールのつながりについて学ぶ機会を設けた。その他、ラオスで助産師として活躍した経験を持つ方や、東ティモールで野菜栽培の経験を持つ方をゲストスピーカーに招き、様々な視点から多角的に東南アジアを理解できるように努めた。経済学部、生物資源学部、看護福祉学部、海洋生物資源学部、すべての学部の専門と関わるトピックを盛り込むことにより、学生の専門教育に生かせるように工夫をした。
　授業の冒頭で前回の復習と、小テストへのフィードバック、そして質問への回答と解説を行った。授業の後半ではグループワークを行い、各学部の専門と東南アジアを結び付けたテーマを設定し、調べ学習を実施した。
【ゲストスピーカー6 人】

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
教養特講 G（多文化共生）（2 単位）　1 年次配当

②内容・ねらい（自由記述）
　移民・難民・外国人労働者など、グローバル社会の特徴の一つである多文化の共存と共生について学ぶ。日本や福井における外国人の増加と多文化共生の取り組みについて取り上げ、世界の多文化社会の特徴と課題について理解できることをねらいとした。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
　未来協働プラットフォーム事業（福井版 PBL）「大学生と考える福井の多文化共生」の利用により、福井県国際経済化多文化共生グループとマッチングした授業をおこなった。福井県国際経済化、福井県国際交流協会、越前市みんなの食堂実行委員会など、福井の多文化共生に関わる事業者をゲストスピーカーに招いた授業をおこなうことにより、地域志向型の授業を実施した。また、出身地や福井県の多文化共生の状況について統計データによる調べ学習をおこい、客観的データにより現状を理解できるよう工夫した。福井県における技能実習生、永住者、定住者などの状況について説明し、多文化共生の取り組みについて理解を促した。日本のみならず、オーストラリアやアメリカにおける多文化政策、シンガポールやマレーシアにおける多民族社会の在り方について授業を行い、世界との比較の視点を持てるように工夫した。
【ゲストスピーカー　5 人】

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
日本の文化と社会（2 単位）　1・2・3 年次配当

② 内容・ねらい
オムニバス講義の 1 回を担当した。「人と動物の多様な関係」と題し、文化人類学の基本的な考え方から人と動物の関係を読み解く視点について理解することをねらいとした。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　オムニバス講義で題材となっている「もののけ姫」を読み解くにあたり、人と動物の観点か

らどのように作品を理解できるのか講義を行った。古代日本における歴史から現代におけるまで日本人と野生動物の関係について授業をおこなった。授業ではグループディスカッションの時間を取り、学生が自分の意見を他の学生と議論できる機会を設けた。記述式のレジュメとパワーポイントを併用し、レジュメには重要事項を書き込めるようにし、要点が分かりやすくなるよう工夫した。調査中に撮影した写真や動画を映し、工夫した。
(2)その他の教育活動
・未来協働プラットフォームふくい推進事業（福井版 PBL）に 3 件応募し、①「観光に生かす地域社会の魅力発見」、②「野生動物と地域社会のかかわりを考える」③「大学生と考える福井の多文化共生」の 3 件が採択された。多数の県内企業や自治体とコラボレーションする PBL 型の授業を実施した。その結果が福井新聞の記事に掲載された（2023 年 5 月 22 日「県立大生が越廼でゼミ、18 人が技能実習生と交流」福井新聞 2 面）。

４．研究業績

(1)研究業績の公表

① 著書

加藤裕美 「境界の可視性と不可視性―マレーシアにおけるインドネシア人労働者の現地化のミクロヒストリー」王柳蘭、山田孝子編『ミクロヒストリーから読む越境の動態』国際書院：東京 Pp. 161-189. 2023 年 4 月.

【１本】

② 学術論文（査読あり）

加藤裕美、祖田亮次「マレーシア・サラワク州におけるインドネシア人労働者のインフォーマル化――在地アブラヤシ小農との関係から」『福井県立大学論集』第 59 号. 2023 年 3 月

【１本】

③ その他論文（査読なし）

Soda, R., Kato, Y. 2023. The Employment of Indonesians on Oil Palm Smallholdings in Sarawak, Malaysia. Space, Society and Geographical Thought 26: 15-26. 2023 年 3 月.

【１本】

④ 学会発表等

加藤裕美 2023 年 6 月 4 日 ボルネオ島の狩猟採集民社会における外国人移住者との共住. 日本文化人類学会第 57 回研究大会. 県立広島大学. 2023 年 6 月 3 日-4 日.（本人発表）

加藤裕美 2023 年 6 月 18 日「ボルネオ島の狩猟採集民シハンの空間統治と民族関係」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題研究会『空間統治と民族関係の人類学―東南アジアを中心として―』第 1 回研究会。東京外国語大学本郷サテライト。（本人発表）

加藤裕美 2023 年 12 月 10 日「ボルネオの狩猟採集民シハンの移動と生業」国立民族学博物館共同研究会『アジアの狩猟採集民の移動と生業―多様な環境適応の人類史』第 6 回研究会。国立民族学博物館。（本人発表）

【３件】

⑤その他の公表実績

2023 年 5 月 22 日福井新聞 2 面「県立大生が越廼でゼミ―18 人が技能実習生と交流－福井の漁業現状を学ぶ」（授業紹介）

【1 本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

【学外】

科学研究費補助金若手研究「マレーシアにおける定住した狩猟採集民が現代的社会問題を克服するための実証的研究」（研究代表者）2019 年度-2023 年度

科学研究費補助金基盤研究(B)「ボルネオの原生林保護と先住民コミュニティの自律的生存が両立する持続的管理の条件」（研究分担者）2019 年度-2023 年度

国立民族学博物館共同研究「アジアの狩猟採集民の移動と生業 ――多様な環境適応の人類史」（共同研究員）2022 年 10 月-2026 年 3 月. 代表：池谷和信

同志社大学人文科学研究所共同研究「コミュニティの維持をめぐるつながりと境界の動態に関する比較研究− 人の移動・交渉・葛藤」（共同研究員）2022 年 4 月-2025 年 3 月. 代表：王柳蘭

福井県未来協働プラットフォームふくい推進事業（福井版 PBL）「野生動物と地域社会のかかわり方を考える」（代表者）2023 年 4 月-2024 年 3 月.

福井県未来協働プラットフォームふくい推進事業（福井版 PBL）「大学生と考える福井の多文化共生」（代表者）2023 年 4 月-2023 年 3 月.

福井県未来協働プラットフォームふくい推進事業（福井版 PBL）「観光にいかす地域社会の魅力発見」（代表者）2023 年 4 月-2024 年 3 月.

【学内】
福井県立大学学術教養センター競争的資金（Z 枠）「福井における地域資源の利活用に関する研究」（研究代表者）2023 年 4 月-2024 年 3 月

(3)特許等取得

(4)学会活動等

日本文化人類学会　会員
東南アジア学会　会員
日本マレーシア学会　会員
International Society of Ethnobiology 会員
International Society for Hunter Gatherer Research 会員

５．地域・社会貢献活動

６．大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
全学委員会 ・教育研究委員（2022 年 4 月～現在） 学術教養センター内委員会 ・教務・カリキュラム委員（2022 年 4 月～現在） その他 ・文系新学部ミーティング（2023 年 4 月～現在）
(3)学内行事への参加
一般教育前期オリエンテーション・履修登録録相談会（4 月 4 日、5 日） 一般教育後期オリエンテーション・履修登録相談会（9 月 25 日、9 月 26 日）
(4)その他、自発的活動など